



全国キャラバン 社会民主党
吉田忠智との対話

たたとものWA 写真で見る 9月6日

全国キャラバンin岡山



あつてはならない原発事故から3年半、放射性物質の拡散で多数の人が避難を余儀なくされ、岡山にも登録者だけで1000人を超え、その3~4倍のひとが避難移住しているという。その皆さんから、健康被害の実態、生活・家族・子どもの



9/6 イトヨーカドー 右:吉田党首



「全国各地元から発信し、分かり易く原点に返って改革・断行していく」と、全国キャラバンの意義を訴えた。発言者は党員支持者、労組・OB、団体、学生など12名。「介護制度が後退している」「血を流す覚悟が求められる集団的自衛権の本質を分かり易く訴えて」「50年来の党員、社会党の方が馴染みが強い」「党ユースの活動強化を」など質問・意見が続く。「党首は、なぜ政治をめざしたか」(学生)、森さんからは吉田党首



9/6 岡山駅前 右:吉田党首

吉田党首が岡山に初来岡。対話続行・改革断行。全国キャラバンで駆けめぐり、岡山で34県目。午前の避難者との対話では、避難をめぐる様々な問題、健康被害や情報「隠し」と現状放置に厳しく迫る場面もあった。「普通に食べて、寝て、起きて、大事な人がいて、犬がいて、みんな同じ人間なんだ」ということを忘れないで」という言葉が重い。▼午後は市内2ヶ所で街宣。「対話集会には役60名参加、発言者12名の中には学生も。限られた時間の中で出された厳しい意見要望にどう応えるか。党の役割、責任は大きい。(の)